



# 「落ち穂拾い記」⑥

## 『宋拓神龍本蘭亭序』

振り返れば、三十代の半ば頃に思いがけなく、身に余るような「蘭亭序」の善本を入手した。その経緯を簡単に述べよう。当時は、都立の定期制高校の国語の教員の職を得ていたので、勤務は夕方からであり、日中に時間の余裕があり、古書店、博物館、美術館などを暇にさせてよく出向いていた。上野の博物館から神保町の古書店まで散歩がてらに歩き、途中の気になる古美術系の書画店などにも足を運んだ。当時上野の末広町の表通りに小さな店をかまえていた若い店主とお茶をいただきながらよく話しこむようになった。時々その店で店主と同業で、同じ年代のS氏と出会い知り合いになった。彼は、いつもピシッとした背広を着込み、いい車に乗り店に現れ、この同業の友人の店で出前をたのみ昼食をとつていた。日本や中国系の書画美術品を専門に扱い、店売りよりも車を使い、直接顧客の自宅等へ出向き、商売をされている様であった。ある日、このS氏から電話があり、「拓本」を入手したから、都合のいい時に見てほしいと。翌日すぐに中央線沿線にあった彼の店に出向いた。二件の木の函を示された。一件は、唐木の細長い函に入った「石鼓文」の巻子であった。剪装本ではなく、整拓本を十紙そのままつなげた大型の巻子である(図①)。第一鼓の下方の余白に「天放樓」の陽刻方形印があり、第二鼓四行目の「氏鮮又」等の文字(図②)が破損せず、第十鼓の余白には楊沂孫の短い題記、更に巻末に韓愈の「石鼓歌」が行書で書かれ、最後に羅振玉の行書細字の十六行四百字余りの跋文(図③)が書かれている。文字の存字状況から明末清初拓の善本であり、東京国立博物館の高島槐安居旧蔵の巻子装の「石鼓文」と同じ程度の拓である。もう一件は、王羲之の「黄庭經」(図④)である。題簽に「宋碑翼拓黄庭經 墨池堂祖本天放樓旧藏」とあり、巻末には呉雲と趙烈文の跋文がある。題簽を始めとして、見覚えのある字であり、戦前の博文堂から大正三年にコロタイプ精印で刊行されている底本であると考えた(図⑤)。この二件は、ともに優れた碑帖であることを説明した。それでこの「黄庭經」を譲つてもらうことを約束した。店主のS氏から、この「石鼓文」をどなたかに紹介してもらえないかと依頼され、この巻子を預かった。碑帖が好き

図版② 第一鼓・新旧比較

東京国立博物館本

S氏本

家蔵本



図版③ 羅振玉跋文



図版④ 黄庭經

宋搨麻題黃庭經 健之觀贊大人

墨池社本  
天放樓藏



図版⑤ 博文堂本



な数人の先生方にお見せした。確かにいい碑帖であることは認められたが、当時にあっては相当高価であり、購入できる方はいなかつた。返却のためにS氏を訪れ、優れたものであるが価格面で知人の先生方には無理であったことを話した。S氏は、今の書道界で、これに関心を示し購入できそうな先生はないかと。関西のI先生の名を挙げた。しばらくして、彼からI先生が喜んで買ってくれたことを告げられた。その後、準備ができ、約束の「黄庭經」を引き取りに出向いた。店には、約束した「黄庭經」は既になかつた。ある日、東京のU先生が来訪され、ご覧になり求められた。店主のS氏は申し訳無さそうに言つた。あの名品が突然に目の前から消え、ただ啞然とするばかりであった。実に不運であり、悔しかつた。しかし、この不運が、「宋拓神龍本蘭亭序」との縁を結びつけることになるとは。

伊藤滋（書斎名・木鶲室）

宋搨翼拓黃庭經

墨池社本  
天放樓藏

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2020)



### 佐久間幸扇



第70回毎日書道展 「露涼し」

佐久間幸扇書

小学生の頃、時々自宅の学習机の下に寝転び上を見上げたものだった。そこには父の筆字で、「昭和〇年〇月〇日、裕子〇〇小学校入学」と書かれており、「父は字がうまい。」と感じていた。父は家具の裏によく購入年月日や謂れを書いており私はそれを見るのが好きだった。母の行草体で書く手紙も、読めはしないが美しいと思った。

小学校の授業では、担任の先生一人の板書がとても温和で心地良かった。この学校では全職員が卒業アルバムに筆字の署名を

中学校では、お二人の国語の先生の板書は対照的だった。一方は九成宮のような細身の引き締まった文字、他方はどっしりして綻びのない、風格や威厳さを感じる文字だった。中村富三（天龍）先生という。授業はサッパリ覚えていないが文字はしっか

する。生徒達から板書を笑われていたある講師は、「一年後を見てくれ」と研修の為か学校を離れた。戻って来た時の卒業アルバムの字はとても立派で、我々生徒は驚き、生意気にも皆で職員室に行き、口々に先生を賞賛したのを覚えている。

高校の芸術書道が種谷扇舟先生との初めの出会いだった。先生の手から繰り出されるさまざまな文字に目を見張り、繰り広げられる知識に驚き感動した。以来、扇舟先生に師事し、先生亡き後は、やはり何でも書け、いとも簡単に何でもこなす辻元大

も書け、り覚えている。

高校の芸術書道が種谷扇舟先生との初めの出会いだった。先生の手から繰り出されるさまざまな文字に目を見張り、繰り広げられる知識に驚き感動した。以来、扇舟先生に師事し、先生亡き後は、やはり何でも書け、いとも簡単に何でもこなす辻元大

も書け、いとも簡単に何でもこなす辻元大

は對照的だった。一方は九成宮のような細身の引き締まった文字、他方はどっしりして綻びのない、風格や威厳さを感じる文字だった。中村富三（天龍）先生という。授業はサッパリ覚えていないが文字はしつかずだ。

書道展だけは華やかであるが、実生活の場が心もとない。「書を世界遺産に」する為には、日本人誰もが筆を持つ経験が出来る義務教育が最も大切な場所になると思う。水書を取り入れ、現場は頑張ってくれるは

板、講演会・研究会の垂れ幕、校門の学校名、デパートののし紙等も筆だった。町中に溢れる筆字や板書やらが無言の教育になった。

しかし時は流れ、今や看板、垂れ幕はおろか、校歌、のし紙は印刷。卒業証書の原稿まで印刷の学校さえある。

義務教育を卒業して、たとえ高校で書道を選択しなくとも、いつか「もう一度筆を持ってみたい。」と思う人がふえてくれることを期待して、私も日本の筆文化に少しでも協力していきたいと思っている。

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 新型コロナウイルスの影響 続く

全国に発令された非常事態宣言は5月20日に首都圏などを除いて解除されたが、東京都はじめ数県では5月25日まで引き延ばされ、その後の状況はまだ予断を許さない厳しさが続いている。この間様々な場面、医療現場や職場など社会環境、学校教育環境、更には私達書や芸術関係者にとっても、日も当たらない状況になっている。

年間行事の柱である毎日書道展の中止順延、その他の各種書道展の軒並み開催延期や中止、講習会、練成会なども、何より日常的なお稽古、塾活動が使用会場の規制により極めて不自由になっていることが、私たちの活動に大きく影響している。

活動の原資である月謝収入、会費収入などが途絶えてしまっている方もおられよう。オンライン、通信指導などで補って指導できる方は是非積極的に取り入れ、生徒やお弟子さんに書への関心、書活動の継続を呼びかけてほしい。出来るところから、少しでも工夫して頑張って、仲間同士の情報交換や助け合いを是非行ってほしい。

## 院関係事業の見直し・変更

5月9日予定の理事会は書面審議に切り替えは前号にて報告。関連する監査を5月7日、院事務所にて理事長、

事務局長、近藤尚子経理担当、半田藤扇監事（高田幽玄監事は遠方のため書面にて）、青木会計事務所から坂野主任により行った。

6月6日開催予定の財団評議員会は、現下の状況により書面による審議に変更する。決議内容は以下の通り。

- 報告事項 令和元年度公益財団法人書道芸術院事業報告について
- 議案第1号 令和元年度公益財団法人決算・監査報告について
- 議案第2号 「任期満」に伴う理事18名の選任について
- 議案第3号 同監事2名の選任について
- 議案第4号 同評議員の補充選任について
- その他報告事項

- 74回展人事（昇格・復帰・退会・除籍・逝去者）について
- 秋季展選考委員について
- 第74回書道芸術院展、第72回全国学生書道展各部部長の決定
- その他

（詳細は次号院報にて発表）

発足、5月15日締切分から応募が寄せられた。

・実用書部門 普段生活の中で生かされる実用書。内容は小筆による手紙文の簡単な文例などをテーマとしている。

最近は手書きに拘らず、メール、パソコンによる活字印刷でやり取りすることがほとんどかもしれないが、書を嗜むものとしては非身に着けたい基本的な表現技術である。

4月6月号まで最初の3回は辻元大雲が参考例、審査を含め担当。7月号からは大平邑峰、三浦鄭街、大隅晃弘、岩垣若翠の4名が月交替にて参考例、審査を担当する。

5月締切の初回は関心が高く、応募数は560点余と予想を上回った。どなたでも応募できることから院展審査会員からも多数応募していただいた。審査はあまり差がつきにくく難しいが、紙面の関係で70名程度掲載となつた。氏名発表は少ないかもしれないが、基礎基本として是非多くの方からの応募を期待したい。

・篆刻部門 以前からの特別研究部でも応募を募っていたがあまり振るわなかつた。書道芸術院として篆刻部門は基幹の歴史あるジャンルである。今回も篆刻と創作とし、実用的な八分角以

に挑戦して欲しい。

今回の応募は篆刻10点、創作13点、計23点とやや少なかったが、今後に期待したい。八分角を越える作品は特別

研究部門（小品）へ応募が可能。

・特別研究部門 これまで毎日展公募集を行ってきたが、今回から大作部門（毎日展役員サイズ以内、小画仙半切を越える大きさ以上）、小品部門（小画仙半切以内（半切1/2以上）の2部門として募集内容を変更した。もっと身近な作品研究との判断で変更した。

5月締切の応募 大作部門62点、小品部門54点とほぼ拮抗した応募をいただいた。応募内容は別掲をご覧いただけます。相変わらず漢字臨書部門が多く、漢字、かなの創作、かな臨書部門が振るわない状況である。

今回からホール作品の批評を従来の4人から一人が責任をもって行うこととし、大作、小品それぞれ4点を写真版ホールとして掲載する。またホール候補として各20名程度の氏号を掲載する。創作、臨書共いろいろ挑戦してほしい。

篆刻と創作とし、実用的な八分角以内としたことは多くの方からのチャレンジを期待してのことである。これを機に篆刻を身近なものとして、積極的

## 日本の書200人選

開催を記念して

「日本の自然と書の心」東京2020大会の開催延期となっていた本展は6月11日～21日まで東京国立新美術館で開催される。ご高覧を。

本年4月号より新企画の競書部門が

## 「書道芸術」競書新部門発足

本年4月号より新企画の競書部門が

## かな基礎基本講座(1)

下谷洋子

今月より、初めてかなを習う人、かなに慣れない人のために、かなの基本を少しづつ解説していきます。

### △かなの文房具について▽

筆=和筆(日本製)でかな向きのもの

・毛質は、堅い毛(イタチ・馬・

狸など)、柔らかい毛(山羊・

猫など)のうち、初心者は柳葉

筆のイタチ系か、兼毫がよい

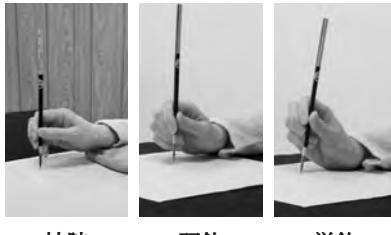
・鋒は $\frac{1}{3}$ 程度をほぐす

・使用後は鋒先を洗わずによくふき取る



紙=基本段階は、かな用改良半紙か、ロール紙がよい(にじまない紙)

墨=和墨(墨液は不可)



枕腕

双鉤

単鉤

### 注意点

・右腕は体から離す。腕の一部は机の端に触れてよいが、右

肘は机の上に乗せない

・腕を上げて書く「懸腕」は小字には適さないが、右の方法が出来にくい人は「枕腕」もある

・書く位置は、体の中央ではなく右肩の前あたりにする。目線が、筆先をとらえられる位置

12年の読売書法展では「調和体」の名称で新設された一方、高等学校では平成元年より「漢字仮名交じりの書」として登場した。

## 現代詩文書基礎基本講座(1)

小竹石雲

硯=小型で良いが硯相のよいもの

筆の持ち方は、写真のように、单鉤と双鉤の二種類ある。单鉤は古筆の臨書など小さい文字形に適する。

### △執筆方法について▽

現代詩文書の誕生の歴史・経緯からしても、これからの部門です。一つの実験台となって皆様方と共に進んでいかれると願ってお引き受けしました。

### △現代詩文書とは

#### ・名称と歴史

書道芸術院では第14回書道芸術院展(昭和36年)より第五科新調和体として新設され、現在「現代詩文書」と称されている。毎日書道展では第6回展で「近代詩文書」部門が、翌年日展の書部門・平成

12年の読売書法展では「調和体」の名称で新設された一方、高等学校では平成元年より「漢字仮名交じりの書」として登場した。

#### ・現代詩文書の誕生

書そのものの現代性と同時に、素材そのものも現代にふさわしいものでなければならないという考え方から現代詩文書が誕生した。現在、私の現代詩文書の



第50回毎日書道展

種谷扇舟先生作品

講座を担当することになりました。現代詩文書の誕生の歴史・経緯からしても、これからの部門です。一つの実験台となって皆様方と共に進んでいかれると願ってお引き受けしました。

理想は左記の三つを基軸としています。

①感動を与えるものでありたい  
②格調の高いものでありたい  
③読めるものでありたい

書は全人格が投影されるものであります。「何を書くか」「何を表現したいか」を第一義とした書作が大切です。

豊かな発想力と表現力を身につけるためには、古典学習を根底として書き込んでいかなければならないと考えています。次回からは、用具やさまざまなもので書くことから導入・展開そして作品古典からの導入・展開そして作品化へと進めていく予定です。

# 「書道芸術」2020年4月号(708)から 競書部門など変更のお知らせ

「書道芸術」4月号(708)から内容が一部変更になりました。出品規定を確認のうえ、奮ってご出品をお願い致します。

## 1. 「篆刻部」を新設

### △出品規定△

#### ① 篆刻△ア・課題による語句

イ・原印は自由

(原印のコピー添付)

#### ② 創作 語句は自由

○印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。

○印鑑は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。

○創作、篆刻とも応募は一人一点。

○審査結果は段級を設けない。

優秀作品と選評を掲載する。

## 2. 「実用書」を新設

### △出品規定△

○用紙 半紙横1/2(24×16.5cm)またはB5コピー用紙縦(26×18.1cm)

○課題 毎月参考語句、手紙文など指定の語句を全文書く。

○毛筆小筆、筆ペン、サインペンも可。

○審査結果は段級を設けない。優秀作品と選評を掲載する。

### ※応募資格

1. 篆刻部、2. 実用書、3. 特別研究部

部は審査会員・審査会員候補・無鑑査・一般講読者どなたでも出品できます。

○「特別研究部」大作の部・小品の部(創作・臨書)一人一点出品。

本号(710)から新企画として、かな基礎基本講座(下谷洋子先生担当)と現代詩文書基礎基本講座(小竹石雲先生担当)がスタートしました。4ページに掲載されています。みんなさんの学習や作品制作にお役立てください。

## 3. 「特別研究部」の作品サイズの変更

A. 大作の部とB. 小品の部を設ける。

毎日展審査会員・会員サイズ以内(縦横自由)

1. 242cm(8尺)×61cm(2尺)

2. 182cm(6尺)×79cm(2.6尺)

3. 176cm(5.8尺)×85cm(2.8尺)

4. 121cm(4尺)×121cm(4尺)

5. 136cm(4.5尺)×106cm(3.5尺)

6. その他

毎日展一般公募サイズ・全紙も可

### B. 小品の部の作品寸法(創作・臨書)

○小画仙半切以内、半切以上(縦横自由)

○「特別研究部」大作の部・小品の部(創作・臨書)一人一点出品。

4月号(708) 篆刻・実用書。  
特別研究部 成績発表

△篆刻△裏表紙

△実用書△22ページ

△特別研究部△24ページ  
25ページ

たくさんのご応募をいただきありがとうございました。今後も奮ってご出品くださるようお願いします。

(編集部)

お知らせ

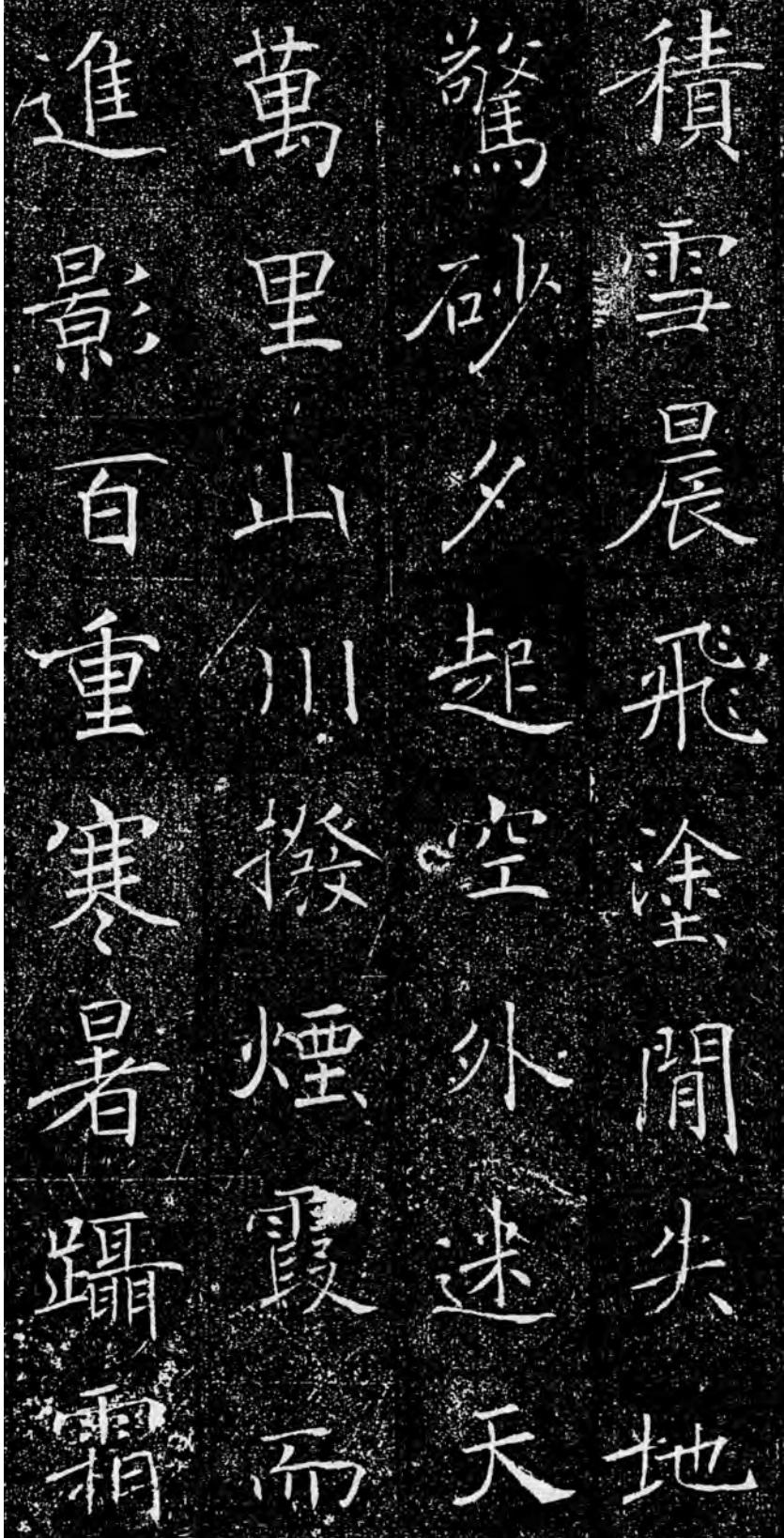
雁塔聖教序

(唐653年)  
褚遂良

③

〈解説〉褚遂良は歐陽詢、虞世南とともに「初唐の三大家」の一人と言われるが、年齢は二人よりも一世代若い。父褚亮が二人と弘文館で書を学んだことから褚遂良も一人の影響を大きく受けた。若くして学識を備え、楷書に優れた褚遂良は歐陽詢にその書の才能を認められていた。唐の二代皇帝太宗に重んじられ、侍書(側近の書記官)として仕えた。その命を受けて太宗收藏の膨大な王羲之の真跡を手に取り、筆跡の鑑定

や収集整理に携わったことは幸運であった。そして王羲之の書の目録「晋右軍王羲之書目」を著し、王書研究にも貴重な功績を遺した。その書には楷書「伊闕佛龕碑」「孟法師碑」「房玄齡碑」「雁塔聖教序」などがある。とりわけ「雁塔聖教序」は初唐の典型的な楷法から脱却し、独自の書法を追求して新境地を開いた作として評価が高い。そのほか、刻帖で伝えられているに行書「枯樹賦」「文皇哀冊」がある。(編集部)



(掲載図版80%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみ也可)

漢字研究部臨書課題

(半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

(A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)  
(B. 小品の部—半切以上半切以内 (A・B縦横自由))

積雪晨飛。塗闊天地。

驚砂夕起。空外迷天。

萬里山川。

撥煙霞而進影。

百重寒暑。

驪

&lt;予告一次号課題

「枯樹賦」

高野切第一種  
(伝 紀貫之)

③

かなる研究部臨書課題  
特別研究部臨書課題

別紙普通判(料紙可)・縦長に使用  
別紙を裁断して貼付も可。半幅紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全幅も可)  
大作の部毎日展鑑賞会員、会員サイズ以内、 $2 \times 6$ 尺、全紙も可  
△いずれも左記の掲載以外も可。V

よみ  
あぶくまにきりたりあけぬとも  
きみをばやらじまでばすべなしも

みちのくはいづこははあれどしほがまの  
うちごふねのつなでかなしも

わがせなをみやこにやりしほがまの  
まがきのしまのまつぞこひしき

をぐろさきみつのこじまのひとならば  
みやこのつとにいざといはましを

※掲載図版は64%縮小。

〈解説〉高野切の筆者は、古來紀貫之(861?~955)と伝承されてきたが、11世紀中頃の3人の能書が寄り合って「古今和歌集」の序および全20巻を分担執筆したものである。

高野切の現存遺品を書風別にみると、

第一種:卷一・九・二十

第二種:卷一・三・五・八

第三種:卷十八・十九

を書写したと推定される。

この3人の中で、最初と最後および全巻の表紙の題字を書いたとされる「高野切第一種」の筆者が筆頭の執筆者であつとも能書として地位の高い人物と考えられる。

「高野切第一種」は、数ある名筆の中でも類を見ない品格を誇っている。この筆者は、まさに当代隨一の能書であつたことをうかがわせる。

(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましよう。

※落款を必ず入れる。署名、もし  
くは〇〇臨(押印のみも可)

(個人蔵)

◇予告一次号課題「石山切伊勢集」

半田 藤 扇

極慮專精 (孫過庭「書譜」)  
(慮を極め精を専らにす)

思慮をつくし精神を集中する。  
銳意専心する。

今月は、直線と曲線を使い分け

た二作の作品に挑戦してみました。  
古典のベースは

。直線(張瑞圖 1570)  
。曲線(文徵明 1470~1559) 明代の書家

創作する上での素材として活用の  
できる名品です。

※上記の作は、直線の創作。張瑞  
図の書法は奇抜の作、転折に注  
意のこと。兼毫筆を使用

※左記の「参考作品」は、曲線で  
穂先の軽妙な運筆力、リズムを  
大切に。羊毛筆を使用

極慮專精 よみ (慮を極め精を専らにす)

書体=自由



太平邑峰

重厚堅正  
(重厚堅正)

今日は中国隋代以前の楷書として、王羲之の系統（南朝）とよく比較される北朝の様式に注目して

みました。力強く野性味溢れる雰囲気が特徴です。高校生の作品などでも龍門造像記の情熱的な臨書をよく目にします。こうした若者たちのエネルギーッシュな感覚や書きぶりは参考になる面が多くあるように思います。

直情的な線表現を目標に兼毫（柔らかめ）の筆を用いてみました。方筆による力強い表現のためには基本的用筆（起筆、送筆、転折、はらい…）をいかにするかよく考えて取り組んではいいと思います。龍門造像記、高貞碑、張猛龍碑等参考になる古典はたくさんあります。是非、古典を習った上でチャレンジしてみてください。



書体＝楷書

重厚堅正 よみ（ちゅうこうけんせい）

かな規定 初段以上【七月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書

### 習い方解説 (三)

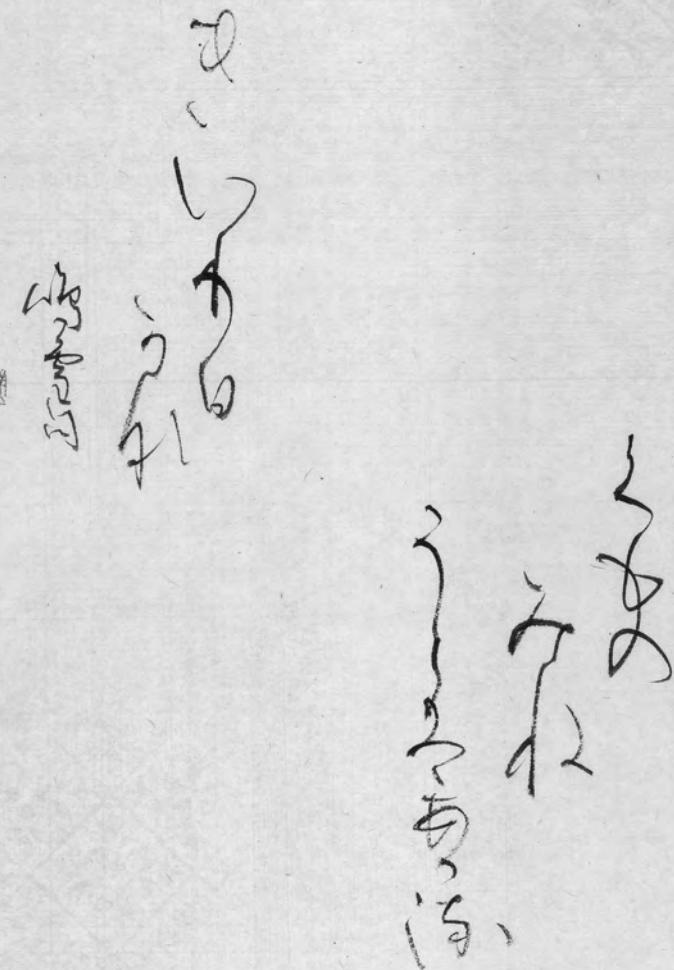
下谷洋子

雲の峰裏は明るき入日かな  
(内藤鳴雪)

字典などで古筆の文字を集め並べただけでは作品になりません。

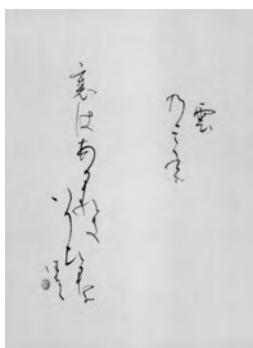
かなの連綿には放ち書きと言って、文字がポンポンと放つように動く高度な手法もありますが、まず、連綿することで流れの美しさを出せることが大切です。古筆は、文字だけを見るのではなく、連綿の姿もつかみたい。どの古筆であっても、かなの連綿にはある種の型があるのです。よく観察してほしい。

本誌に掲載の古筆を参考に、創作への第一歩を始めましょう。



よみ方 雲(久も)の峰(みね)裏(うら)は(盤)明(あ可)る(流)き入(い利)日か(可)な(那) 鳴雪句

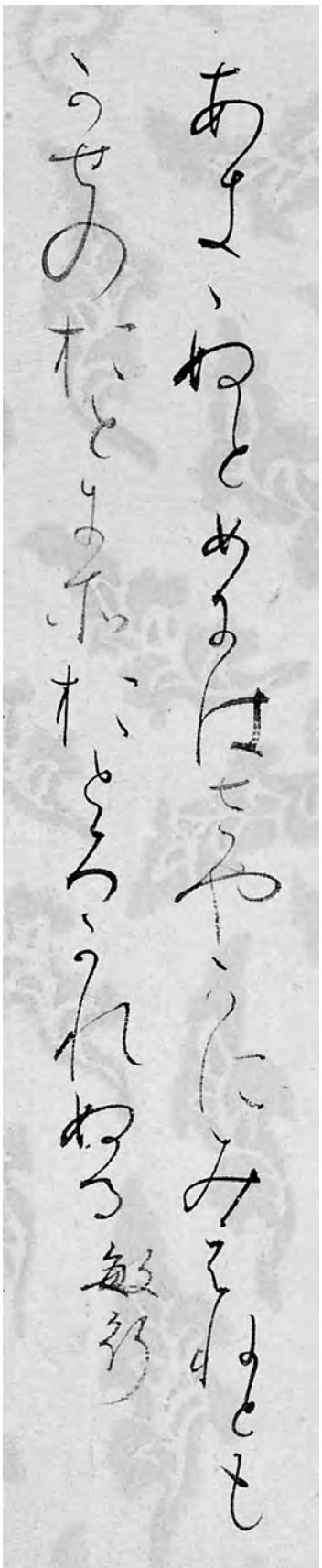
創作



かな規定 秀級以下【七月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方 あき(支)／ぬとめに(尔)はさやか(可)にみえねども  
か(可)ぜの(お)とに(尔)ぞ(所)お(於)どろか(可)れぬる敏行

### 習い方解説 (三)

善養寺紅風選書

かな条幅規定【七月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

善養寺紅風  
雲の中滝かゞやきて音もなし  
(山口青邨)



よみ方 雲の中滝(滝)かゞ(ノ)やきて(亭)音も(毛)な(那)し 青邨の句

創作

山口青邨は、昭和12年より2年間ドイツに遊学した時アルプス山脈に登り、この句を詠んだ。雄大な光景と、季節感を表現したく、漢字の変換をせず運筆しました。2行目、末尾を軽くし、作者名を添えてバランスをとりました。

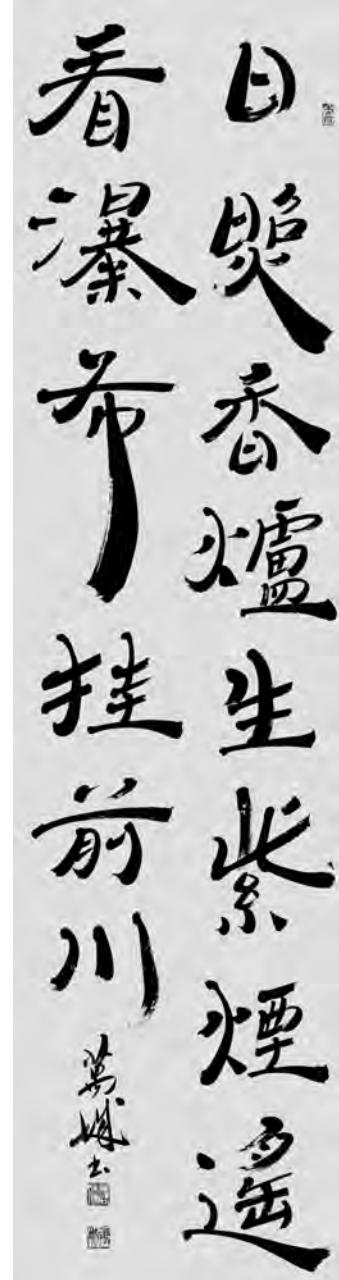
\*タテ形式に限る

漢字条幅規 定 初段以上 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

種谷 萬城選書

習い方解説 (三)

種谷 萬城



日照香爐生紫煙  
遙看瀑布挂前川  
(李白「望廬山瀑布」)  
(日は香炉を照らして紫煙を生ず、遙かに見る瀑布の前川にかかるを。)

書体=自由

今月は、漢簡の書風で書きました。二十世紀初頭、中国西域の遺跡から、肉筆文書である木簡が多数発見され、その後の発掘調査で、中国各地から簡牘が大量に出土しました。筆の穂先の開閉を自在に用いた多彩な線は、生命感溢れ、躍動的です。特に装飾的な波磔は、表情豊かで魅力的です。隸書学習に、漢簡と漢碑は共に重要です。  
※タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

習い方解説 (三)

小竹石雲



風清人倚樓  
(風清く人樓に倚る)  
(劉汎)

書体=自由

今回は捻れに重点をおいて書いてみましょう。捻転した線は強く、味わい深く沈潜されます。小手先でこねくり回すと嫌らしくなります。抑揚、緩急をつけながら書くと表情もできます。捻れも小さくスピンするようなものから雄大なうねりのようなものまでさまざまです。それには筆が大きく左右します。いろいろな筆で挑戦してみてください。

廣瀬舟雲

聖火はオリンピアの  
神殿跡で採火。そ  
して日本へ。「復興の火」と  
いいます被災した地  
東北の地に灯る。舟雲がく

今大会の聖火は、かつて古代オリンピックが開催された神殿跡で三月、凹面鏡を用いて太陽光から採火。後に特別機で日本に運ばれ、まず、東日本大震災で被災した地に復興の火として灯る。その後、聖火ランナーによって全国を巡る予定であったが…。心待ちにしていたリレー延期の報。平和で今日無事の有難さが深く身に沁みる。56年前の幼き頃、聖火リレーを沿道で迎え、小旗を振った平和な日の記憶がなつかしく甦ってきた。

(フェルトペンを使用)

聖火はオリンピアの  
神殿跡で採火。そして  
日本へ。「復興の火」と  
してまず被災した  
東北の地に灯る。

◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

書体=自由

# 姓 号

謹啓 謹言 初夏 梅雨入り  
謹啓 謹言 初夏 梅雨入り

雨上りの木々の緑も色鮮やかに  
雨上りの木々の緑も色鮮やかに

(楷書) 謹啓 謹言 初夏 梅雨入り  
(楷書) 雨上りの木々の緑も色鮮やかに

(行書) 謹啓 謹言 初夏 梅雨入り  
(行書) 雨上りの木々の緑も色鮮やかに

基本用語 「謹啓」丁寧な頭語。対する結語は「謹言」「敬白」など要用いる。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)  
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可  
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品  
各部総評 No.708

漢字部 師範 西野 琴春  
筆が奔放に活躍し、表情豊かな曲線が魅力的。紙背紙の裏)を用い、渴線の効果が生かされた華麗な作風。

◎漢字部総評 上級は参考手本に倣った行草書が多く、線質に差が見られた。筆法の鍛錬で、上質の線を研究してください。(萬城評)



漢字条幅部 師範 吉瀬 彩雨  
骨力ある運筆が独特の破筆を伴う厳しい線のリズムを生み出している。通貫性ある妙作。

◎漢字条幅部総評 上級参考例による篆書表現は難易度高かったか。篆書の造形、骨格の厳しさの修得を。

(大雲評)



前衛書部 特選 中島 正美

毛筆の機能を最大限に生かした豪快な作。躍动感あり。渴筆も美しい。より墨色の工夫を!!

◎前衛書部総評 新型コロナウィルス退散を願って力強い作品多数。より大胆な表現を!!(京子評)



かな条幅部 師範 濱田 陽一  
参考手本から十分に学び独自の世界を開いて見事。リズム、墨色、墨量総て自然体で老練な作。



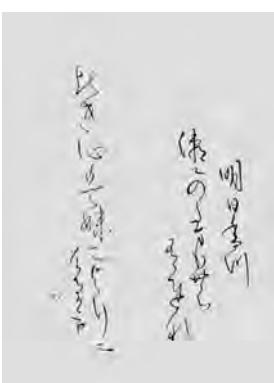
現代詩文書部 特選 戸村 博舟

叙情性のある作。構成、墨色が詩文と調和し、知床の風景が浮かび感動した。落款も見事なり。

◎現代詩文書部総評 華やかな造形美の作品よりも基礎のしつかりした品格のある作品を。(素雪評)



◎かな条幅部総評 變体がなの暖昧な作品が多く残念。筆をとる前に、じっくりと手本と向き合い深い理解から始めること。(明子評)



かな部 師範 山口 雪翠

申し分ない程熟れています。基本も確かなようなので、これからは少しづつ自分のかなに挑戦をしまして。下位の方は、文字が小さく筆が小さい。臨書の筆よりも大き目にしましょう。(洋子評)

◎かな部総評 全般によく出来ていました。下位の方は、文字が小さく筆が小さい。臨書の筆よりも大き目にしましょう。(洋子評)

ペン字部 師範 重信 裕映  
漢字かなの大小の見事なバランスによって、美しい行書体の豊かな流れが表現された爽快作です。  
◎ペン字部総評 行間の余白が良くてされた作品が多かった。楷書に比べ行書の筆勢はやや速くなるが粗雑にならぬよう留意。(季予評)

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 山口仙草 石井明子 東福青篁

## 小品の部

### 現代詩文書

(寿福) 大作優子「いのちをほる」

原島春汀 「雁塔聖教序」

(紅瑠)

蓋聞二儀有象顯覆載以含生四時無形潛寒暑以化物是以竈天鑿地庸愚皆識其端明陰洞陽質括其數然而天地蒼乎陰陽而易識者以其有象也陰陽處乎天地而難窮者以其無形也故知象顯可微雖愚不惑形潛莫覩在智猶迷況乎佛道蒙虛乘幽控蔚之則獨於豪釐無毫無生意千劫而不吉若隱若顯

136×35cm

原島春汀 臨

◆小品の臨書作をよくまとめています。太

細の変化の特徴をよく捉え、線の表情が豊

かな爽やかな作品です。

(仙草評)



136×35cm

齊藤杏邑書

◆潔いリズムで紙面を進み楽しい。大字が  
なは殆ど体育会系の仕事と認識している私  
には強い共感あるのみ。

(明子評)

大雲江本興舟  
「かな」

◆のびやかな筆勢と彈力のある強弱表現で、  
味わい深い臨書作品となつた。緩急のリズ  
ムが心地よい。

(青篁評)

千葉安藤叙孝  
小畠豊嶋英樹  
江龍鶴田恵子  
八街三浦勝  
小映益子翠蘭

土屋恵仙臨

【漢字】  
【漢字の部】  
【前衛】  
富古長澤紅苑  
植松梅田紅雨  
大雲柿沼彩香  
清流波谷充律

土屋恵仙 「雁塔聖教序」

(澄春翁)  
臨書

蓋聞二儀有象顯覆載以含生四時無形潛寒暑以化物是以竈天鑿地庸愚皆識其端明陰洞陽質括其數然而天地蒼乎陰陽而易識者以其有象也陰陽處乎天地而難窮者以其無形也故知象顯可微雖愚不惑形潛莫覩在智猶迷況乎佛道蒙虛乘幽控蔚之則獨於豪釐無毫無生意千劫而不吉若隱若顯

136×35cm

大作優子書

◆あたかも地を突き破り成長するが如き筆  
脈の流れ、リズムに魅了される。左行小書  
き更に工夫を。  
(大雲評)



136×35cm

創作の部(24点)	漢字 - 1点
かな - 2点	か - 1点
現代 - 17点	前衛 - 4点
臨書の部(30点)	漢字 - 1点
かな - 3点	前衛 - 0点

創作の部(24点)	漢字 - 1点
かな - 2点	か - 1点
現代 - 17点	前衛 - 4点
臨書の部(30点)	漢字 - 1点
かな - 3点	前衛 - 0点

54点  
〔特選候補者〕  
(創作の部)  
【現代詩】  
青湖北嶋青湖  
大雲柿沼彩香  
植松梅田紅雨  
【前衛】  
富古長澤紅苑  
清流波谷充律  
〔臨書の部〕

# 大作の部

臨書（大雲）鷺山美梢 「雁塔聖教序」

154×80cm

部分拡大

西馳揚不弘陽化  
物應平天而之相  
寓地而難鑒地  
若品興常無凝威  
隨體當現常言廣



◆細く強韌な線質と緩急による洗練された全臨作品。落款まで見事に調和した上品な作品となつた。

鷺山美梢臨

（青筆評）



60×177cm

平野笛舟書

◆細字を乱れなく淡々と表現しながら近寄ると一字ずつが実にスケールが大きい。  
印サイズ過大が残念。  
（明子評）

部分拡大

臨書（紅瑠）

相澤敦子「雁塔聖教序」

136×70cm

部分拡大

◆中央部の濃墨の強韌な線が全体を支えている。紙面全体を大きく使い生きとした氣力あふれる作。（仙草評）

前衛書（白珠）  
石澤徳子「魂」



90×90cm

石澤徳子書

◆細やかな唐草模様の紋箋を用い、原寸での全臨作品。  
丁寧かつ丹念に、細部までよく観察した充実作。

（大雲評）

相澤敦子臨

蓋聞二儀有象顯  
其數然而天地茫  
不惑形潛莫覩之莫  
則弥於宇宙細之莫  
法派湛寂提之莫  
其數然而天地茫  
不惑形潛莫覩之莫  
則弥於宇宙細之莫  
法派湛寂提之莫

部分拡大

136×70cm

かな (千葉) 平野笛舟  
「高野切第一種」



平野笛舟書

60×177cm

◆細字を乱れなく淡々と表現しながら近寄ると一字ずつが実にスケールが大きい。  
印サイズ過大が残念。

（明子評）

◆細く強韌な線質と緩急による洗練された全臨作品。

落款まで見事に調和した上品な作品となつた。

由田隆敷口仰而慕毛毛下是處及利不可於張而別居於利斯也。利阿山而至其處及前奉毛毛之時而地世界較舊官室而舊其處及此。方者且自利其處及之矣而地世界較舊官室而舊其處及此。利明人安坐於重殿及寶座前奉毛毛之時而地世界較舊官室而舊其處及此。利明人安坐於重殿及寶座前奉毛毛之時而地世界較舊官室而舊其處及此。利明人安坐於重殿及寶座前奉毛毛之時而地世界較舊官室而舊其處及此。利明人安坐於重殿及寶座前奉毛毛之時而地世界較舊官室而舊其處及此。

創作の部(37点)

漢字——4点

かな——6点

現代——13点

前衛——14点

漢字——22点

（特選候補者）

総出品点数 62点

かな——3点

◆細やかな唐草模様の紋箋を用い、原寸での全臨作品。

丁寧かつ丹念に、細部までよく観察した充実作。

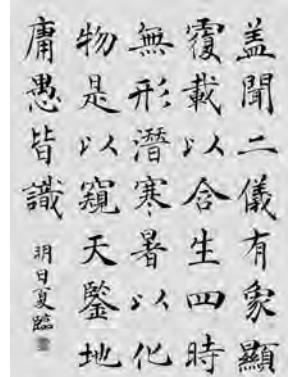
（大雲評）

千葉 紅瑠 英峰 竹池 吉瀬 佐藤 (臨書の部)  
かな 猪又 青木 松風 西條 大和 阿部 市川 高橋 加藤 昌子 紫翠泉 香雨 雲卿  
理扇 叙舟 沙靜 彩舟 門美 梅雨香 桂華 惠泉 惠 弦 恵子 由華 雲香

漢字研究部  
(雁塔聖教序)

選評名 越 蒼 竹

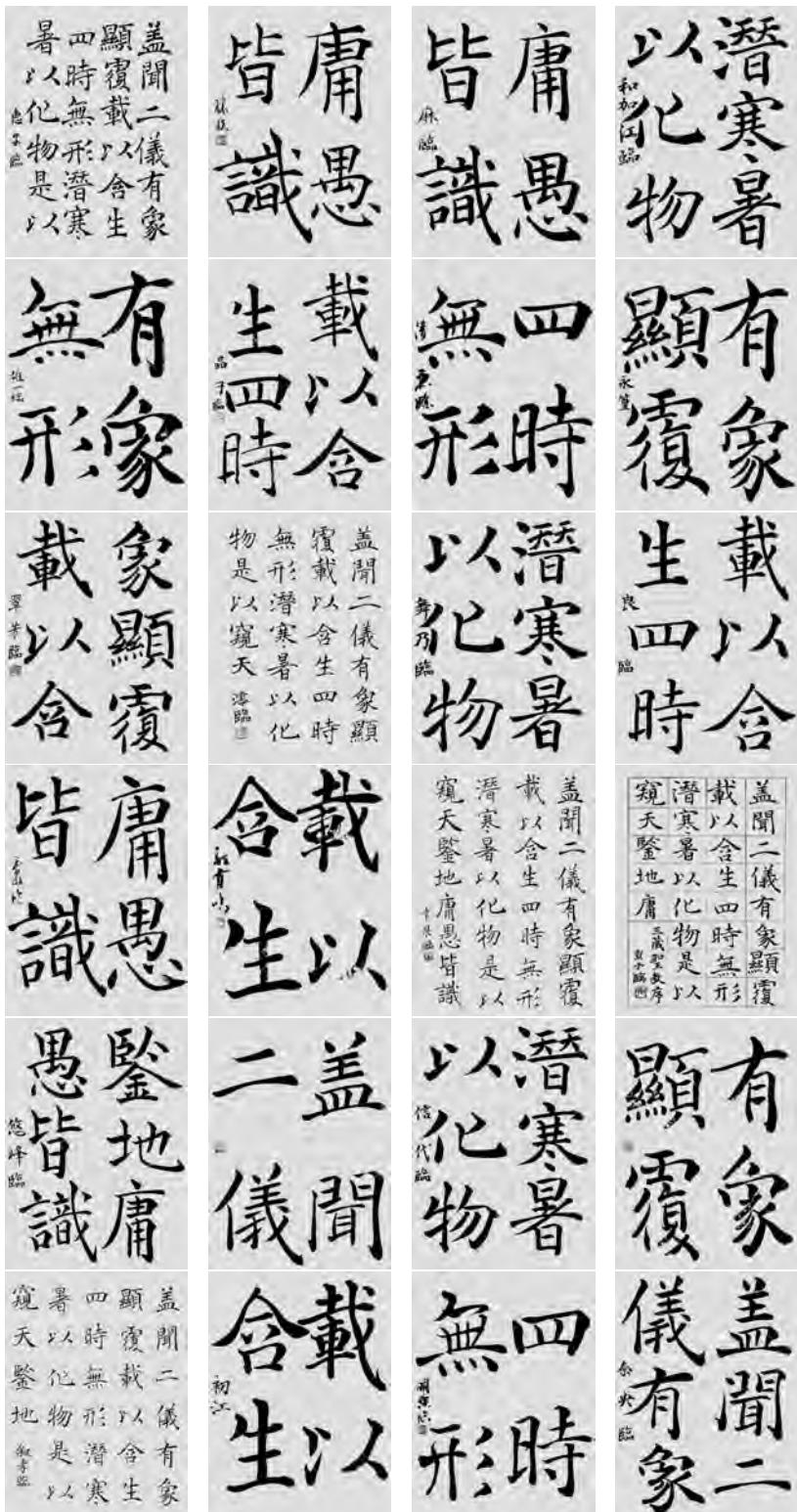
今月のホープ作品



加瀬 明日夏

漢字研究部 総評  
細身の線で書かれた楷書は、一文字の中の空間(白)が多く、文字同士をくっつけてし  
筆先鋭く、弾力的な運筆による筆圧変化の妙が表現された素晴らしい臨書作品である。古典に対して真摯に向き合い、緻密な観察と新鮮な感動を基に取り組んでいる姿勢を感じられ、他の模範とすべき秀逸作である。

まうと字座が曖昧になつて、締まりのない作品になつてしまします。かといって太く書けば正確な臨書とは言えず、半紙に四字以下でまとめるには相当な力量が必要だと思います。必ずしも字数が少なければ楽というわけではありません。字間をとつた小さい字でも存在感を持たせるには強い線質が必須なので、これを鍛えるようにしたいものです。



叙悠玉翠雄恵  
孝峰泉芳一子

初清紅 晶  
江尚霞 子

明信幸舞清麻  
香代泉乃麗美

奈岳敦良永和  
央舟子子簞江

かな研究部  
(高野切第一種)

選評 勝山初美

今月のホープ作品



良清律

竹典幹

星恵耶

和杏寿

泉耀子

鳳子生

子子衣

美子邑

本田美雪

◎かな研究部總評 太い線の重量感と細い線の渴筆などの、特徴は捉えているが、連綿の長短・繰り返し符号(フ)など観察不足も散見。拡大すると見えてくる線もありました。

緩急・抑揚の変化に富んだ美しい線質で、墨量の変化もしつかり捉えて作品に立体感を与えています。

おだやかで格調高い逸品となりました。

かな研究部成績表

かな研究部	特選	本田	美雪
正八誠 A 清菊紅 華街和 I 月月瑠 秀	青水 A 長書高た玉 A 清上八幡大高中長う天 A 玉清潮紅蓮海 I 月游井か松 I 月泉街菱雲崎川月る璋 I 松月音風紅		
岡井石池飯新藍 作	沼飯清増庄榎浜橋堀小早井後磯飯大原飯中寺田境齋田本 田上崎田島井澤 由ト	特選	
麻芝甘信ミ 惠白 美雲雨子珠	奎洋紀佳咏和永幸嘉春 良清律竹典幹星恵耶和杏美美雪		
京蓮東高中白石掃 橋紅伯崎川露習雪	一上は白上祥や琇澄蒼書八秀大高正高、大若う蘭琇正大 弦泉せ露泉紫ま韻春湯泉雲霞雲崎華真、雲葉る鼎韻華阪		
吉遊山矢三松松福嶮早濱長野中教田竹高高七七椎驚小小木高黒工木川加加小 田佐本口田村丸富尾坂田谷口村賀玉内橋木五條名山峰沼暮武柳藤村崎納瀬野 か久シ澄 佑紅真登蒼陽愛牧は萌陽久美ヶ美哲智幸蒼和裕光美加美美玄竹山順優順日萩 子雅紀江舟子石子の香一子子恵子苑信美美子梢子結紀城葉房子子子夏光			

白珠 入	昌祥華椿竹蘭松菊千高上誠 // 澄東 上水洞一 秀上玉旭蕙紅 明菊八た東蒼高大英祥書白椿白た澄正久紅有坪玉 苑紫仙翠美鼎村月葉崎泉和 春向 // 泉海書草 故泉川老書瑠 漢月生か小陽崎雲峰紫游驚翠驚か春華實秋和松	佳作
青木相木内	吉山山安八森茂宮松松本福深深富島萩根根中中筑築高高関須嶋島篠篠佐込小草吉北小乙大大梅宇鶴岩岩石安青 木崎重浦多原掘澤山原岸岸村村江井本原橋口田 田渡々山林刈瀬村野幡島木木田澤潤田川藤木川 木崎真橋	作
松沙莉	翠雪砂紀直翠英翠玉和里清佳芝洋正み寛一よ宏え眞芳香称美悦美薰美武眞彩志 // 智昌歩簞春李祥代洋美葵 綾京翠子舟子芳明景江枝萌光月香子子子琴子子薰枝舟子子子右子艸仲房子子悠鄉	60書

黎墨土正高誠澄竹正大八光竹蕙洞澄芳や黎墨秀大立東広梓大こ樹青、黎渡白誠、澄誠橋蘭華日岩正大洞椿大も大澄仙京光素雲縁氣華崎和春原華拙街彩美書春蘭ま明花畠阪精向島江阪「明辽驚和」春和雅鼎祥新沼華阪書翠抽く阪春台橋彩雪

鈴鈴杉杉神新新代柴佐佐櫻桜坂酒齊齊小小岸菊菅川金加葛小小大大大江鶴植岩入伊市板石石生安安荒新天阿熱東浅川秋木木木浦宮谷行田田藤々木本井藤藤林口池本地野本元岡藤 野田嶋沢口澤田瀬谷与川垣橋崎川駒藤木井羽天海内木  
内木 美知

姫節祥幸玉翠瑞葉洋陽美龍智里花靜江つ桃智直萩白静南茱萩翠惠朱愛唯淳茉琴紅祥悠玉チ青嘉正津萩楊代孫藤惠洗桃花な子風子枝光華子子貞舟美雪流彩え奈子子西雅代汀仙美陽美星実菜子子悠舟兩園花泉子子花風子功雪子草翠子江子

遷芳正殊幸無梨桜 八春硯大椿黎澄華京白有光長椿前琇玉姫高白北澄大泉書遊水春玄東小秀も高一泉四立清天桜竜甲上玉日外蘭華韻屬門明草 街汀水阪翠明春仙橋露秋昭月琴橋韻松路崎珠原春雲會景雲壑汀象実映水く真宮会枝精月璋草泉和泉川外

152渡驚吉山山守森村富宮宮三松増前堀古福福平平春林長乘二西仁浪名永永長中中道豊富戸鶴鶴辻塚千竹田高高高関藤草根名邊沼川本中中友田上野澤坂上田田川谷田井山山谷船通山木川取田井并井山島庭嶋澤部淵田 田田澤口橋橋理氏紗志 满由さか美川 理

名信将幸梅清和津龍佳津満草萩裕綾華瑛魯美流久だつ勝奈千抱麗莫光秋美時伯久悦知正白 惠藤亞雅洋美白恒代美雅松代代美

略溪太惠香玉子子博月枝秋苑子香秀仙春子源子子子美子峰花子龍堂花紬子泉仙子子美昇勝子風希裕子翠香子子好泉美子子

## ●篆刻

【七月十五日締めきり】

摹刻

708号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

創作



「漢委奴國王」



「夏」

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

①摹刻

(ア)課題による語句  
(イ)原印自由  
(出品の際、原印のコピー添付)

②創作  
語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

### 6月号 篆刻課題

後漢印

「臣光」



「臣光」

### ○出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款（氏名）を入れる。

		(摹刻)	
		北日	成田 能喜
		特選	
高真綱	秀		
鶴淵岡	作	(50音順)	
亞豪峰		能喜	
倦雨雲			や佑明唯一
大遊雲			やま
(選外なし)			佑明唯一
連形研	入選	(50音順)	逢沢
葉子			橋本柿沼
中島川			水津
倦雨			清惠風
長島川			彩香
(選外なし)			唯

		(創作)	
		小映	金谷皓洋
		特選	
東総	秀		
関口	作	(50音順)	
新行内			皓洋
天峰裕			
(選外なし)			
宗炎佳	入選	(50音順)	佳作(50音順)
慈弘舟			
遊苑空			
(選外なし)			
茂佐坂			
赤星			
阿坂本			
羣越文			
絢水華			
覺炎山			
文庵			

定価		一部	七五〇円
発行人	辻元洋一	(大雲)	
編集兼			
データ処理			
印 刷	小沢写真印刷株式会社	リンクス	
発行所	公益財團法人書道芸術院	東京都千代田区東神田一丁目六七	
		東神田プラザビル三階	
		電話(03)3862-1954	
		FAX(03)3862-1957	
		振替 100-150-4135058	
		ホームページ <a href="http://www.linos.co.jp/shohei/">http://www.linos.co.jp/shohei/</a>	

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可  
令和二年五月二十五日印 刷  
令和二年六月一日發行

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七一〇号